

外環の2 及び 周辺道路の将来交通量推計に対する問題点

- 下図は 都のデータ集“資料2-6”の3-2頁のデータである。
- 第4回話し合いの会(2012年5月開催)にて 現状値は最も新しいH22年センサスを用いるべきとアピールしデータ集は改訂版“資料5-8”が出された。(本資料は この改定により 以前、提出した“資料5-9”の改訂版である)
- しかし修正されたのは 現況値のみ、H22年センサス値に置き換えられただけで H32年、H62年推計値は H17年センサスに基づいたままである。何ら修正されていないのである。
- H22年センサス値はH17年センサス値に対し約1割減少しており、将来推計値もそれ以上に減少していくことは明らかである。
- この話し合いの会は道路が必要かどうかをを議論する場であり、そのための判断基準としてこれらの交通量が新しい数値に置き換えられるべきである。何時ごろと約束して貰えるのか？
- 右表で H17年センサス値と H32年推測値を比較してみると 合計で1%減ただけで ほとんど変化が無いことが判る。H22年センサス値は H17年センサス値を 約1割減少することから 将来推計値も同様に減少することは 明らかである。

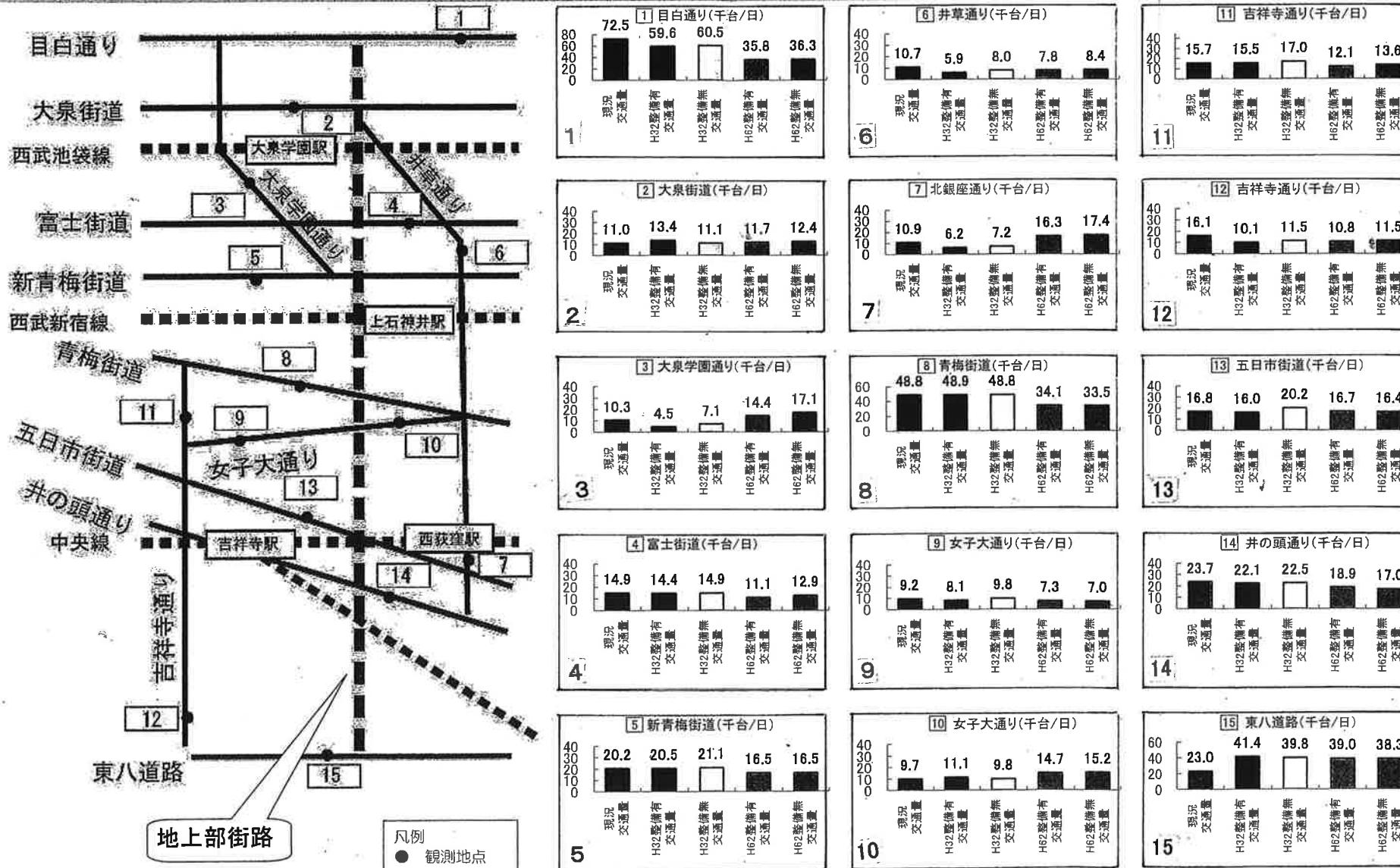
下のグラフは敢えて旧版のデータを使用しています。(資料2-6のグラフです。この方が理解し易いからです)

【整備効果】

交通量

地上部街路が整備された場合と整備されない場合の交通量の比較 (現況、H32、H62)

・地上部街路が整備された場合、H32年交通量で比べると、南北方向 (3大泉学園通り、6井草通り、7北銀座通り、11・12吉祥寺通り)、東西方向 (1目白通り、13五日市街道 他) では、交通量が減少することが見込まれます。



外環の2 と 周辺道路の条件別・交通量の比較 (単位:千台/日)

番号	道路名	A 整備無での比較				B 整備有無・比較(H32)		X 混雑度
		H17センサス	H22センサス	H32整備無	H62整備無	H32整備有	H32整備無	H22センサス
1	目白通り	72.5	65.1	60.5	36.3	59.6	60.5	
2	大泉街道	11.0	8.7	11.1	12.4	13.4	11.1	
3	大泉学園通り	10.3	10.3	7.1	17.1	4.5	7.1	
4	富士街道	14.9	12.7	14.9	12.9	14.4	14.9	
5	新青梅街道	20.2	22.2	21.1	16.5	20.5	21.1	
6	井草通り	10.7	9.0	8.0	8.4	5.9	8.0	
7	北銀座通り	10.9	9.1	7.2	17.4	6.2	7.2	
8	青梅街道	48.8	41.2	48.8	33.5	48.9	48.8	
9	女子大通り	9.2	8.9	9.8	7.0	8.1	9.8	
10	女子大通り	9.7	8.3	9.8	15.2	11.1	9.8	
11	吉祥寺通り	15.7	13.8	17.0	13.6	15.5	17.0	
12	吉祥寺通り	16.1	17.1	11.5	11.5	10.1	11.5	
13	五日市街道	16.8	14.8	20.2	16.4	16.0	20.2	
14	井の頭通り	23.7	13.9	22.5	17.0	22.1	22.5	
15	東八道路	23.0	36.2	39.8	38.3	41.4	39.8	
小計(千台/日)		313.5	291.3	309.3	273.5	297.7	309.3	
		100.0%	92.9%	98.7%	87.2%	96.2%	100.0%	

「整備効果データ」についての疑問点

1. 国交省発表の H22 年センサス値との対応を見るために 15 道路全てについて その観測地点番号、昼夜率を明記して欲しい。
2. 同時に15道路の混雑度を 各々について明示して欲しい。単に 交通量が減少と言う様な定性的な話でなく混雑度を示して欲しい。
3. 1の目白通り、15の 東八通りの交通量について どの様に求めているのか？教えて欲しい。

$$\text{混雑度}[X] = \frac{\text{道路の交通量}}{\text{その道路で処理可能な最大交通量(交通容量)}}$$

- 混雑度[X]が1.0以下の場合...混雑なく円滑に走行
- 混雑度[X]が1.0以上 1.25未満の場合...ピーク時間に混雑
- 混雑度[X]が1.75以上... 慢性的な混雑状態